

改革・創造みらい、望月義寿でございます。通告に従い質問いたします。

最初に、UDフォントの導入について質問いたします。年齢や能力、状況などにかかわらず、できるだけ多くの人を使いやすいように、製品や建物・環境をデザインするユニバーサルデザインの考えに基づいたフォントが自治体でも取り入れられるようになりました。茨城県行方市^{なめがたし}は市の広報誌は平成 29 年から、職員 PC の環境では平成 31 年から UD フォントを採用し、令和 3 年 12 月にはHPでも採用しました。兵庫県明石市でもUDフォントが取り入れられ、Twitter で話題になりました。県内においても、茅野市が令和 4 年 5 月 1 日からホームページにUDフォントを導入するなど、誰もが見やすい・わかりやすい情報発信が求められています。行政は、「伝える」ことが大切ですが、伝わらなければ意味がありません。「伝わる」ことを意識した情報発信のため、本県においても、ホームページやメール、行政文書全般にUDフォントを導入したらいかがでしょうか。玉井総務部長にご所見を伺います。

次に、ウェブアクセシビリティについて質問いたします。茨城県神栖市^{かみすし}では、ウェブアクセシビリティに取り組み、全国 862 自治体を対象とした A.A.O.ウェブサイトクオリティ実態調査 自治体編第 17 回において、公式ホームページが最上位の「A レベル」であるとの評価を受けました。本県では「ウェブアクセシビリティ」に配慮したホームページの実現を目指していますが、UDフォントは取り入れられていませんし、残念ながら、同調査において本県は到達レベル「E」と評価されました。いち早くUDフォントを導入した行方市のレベルもEであることを考えると、フォントだけで評価が左右されるわけではない証左でしょうが、誰もが見やすい・わかりやすい表記を取り入れることは大切だと考えます。本県のホームページにおいてもUDフォントを導入すると共に、更にウェブアクセシビリティへの取り組みを進めるべきと考えます。本県のウェブアクセシビリティの現状と今後の取り組みについて、清水企画振興部長のご所見を伺います。

次に、部活動指導員の人材確保について質問いたします。文部科学省が平成 28 年度に実施した教員勤務実態調査において、教員の厳しい勤務実態が改めて明らかになったことから、学校における働き方改革が進められてきました。その一環として、平成 29 年 4 月 1 日施行の学校教育法施行規則の改正によって、部活動指導員が制度化され、学校長の監督下で、顧問である教員の代わりに、あるいは顧問として、教員と連携を図りつつも単独で部活動の指導や大会・練習試合への引率ができるようになりました。公益財団法人日本スポーツ協会が令和 3 年に行

った「学校運動部活動指導者の実態に関する調査」によると、運動部活動の顧問のうち、保健体育以外の教員で担当している部活動の競技経験がない教員は中学校で 26.9%、高等学校で 25.3%であり、平成 26 年に行った同調査の中学校約 46%、高等学校約 41%からは改善されていますが、該当する教員のうち中学校で 35.9%、高等学校で 31.5%が、「自分自身の専門的指導力の不足」を課題としています。本県の調査によると、担当している部活動の競技経験がない教員の割合は 60.8%と、全国平均よりかなり高く、本県にこそ部活動指導員が必要だと考えます。部活動指導員の活用は、質の高い部活動指導や教員の負担軽減などの大きな効果が見込まれますが、短時間勤務のため報酬が少なく、生業というよりは有償ボランティアの位置づけにならざるを得ず、人材確保が難しい状況にあります。そこでお伺いします。

総合型地域スポーツクラブから部活動指導員を派遣してもらうのも一つの方策と考えますが、総合型地域スポーツクラブとの連携は進んでいるのでしょうか。

県にはスポーツ指導者バンクがありませんが創設し、指導者と学校とをマッチングして人材確保に務めてはいかがでしょうか。

東京都日野市では、地域企業の実業団選手 OB や経験者をスポーツ指導者人材バンクに登録してもらい、部活動に派遣する取り組みを進めていますが、本県でも地域企業やスポーツ活動をしている大学生等に積極的に働きかけてはいかがでしょうか。

また、部活動指導員は学校職員と位置づけられていることから教員業務支援員等との兼職により、今以上の報酬を保障し、人材確保に努めるべきと考えますがいかがでしょうか。内堀教育長のご所見を伺います。

最後に、国民スポーツ大会における隔年実施競技について質問いたします。令和 10 年に本県で開催予定の第 82 回信州やまなみ国民スポーツ大会における実施競技は、馬術となぎなたが隔年開催とされ、どちらかが外れることになる可能性が高くなってしまいました。開催県として、県内からオリンピック選手を輩出している馬術は実施すべきであると共に、連盟のご尽力で成果が上がっているなぎなたも実施していただきたいと思います。日本スポーツ協会に対し、両競技開催を働きかけていただきたいがいかがでしょうか。内堀教育長のご所見を伺います。